新科目「グローバルライフ」実践報告

家庭科　田中友紀子

筑波大学附属坂戸高等学校は、平成２６年度にスーパーグローバルハイスクール（以下、ＳＧＨ）に指定された。ＳＧＨカリキュラムにおいて基礎科目としての役割を担う「グローバルライフ」は家庭基礎をベースとし、国際化を身近な課題として意識させ日常生活から世界とのつながりを感じられる授業を目指し、家庭科と他教科との連携を図りながら開発している。開発初年度の平成２６年度では主に２学期から「グローバルライフ」として実践してきた。ここまでの取り組みをまとめ、次年度以降における科目の充実に生かしたい。

キーワード　　ＳＧＨ　　地球市民性　　グローバルな視点　　家庭科

１．はじめに（設置の背景）

ＳＧＨ指定にあたり、本校の国際に関する課題を見直すと、国際的分野に関心をもつ生徒の偏りや国際的な行事や取り組みについて校外学習を除くと全体にゆきわたっていないことが挙げられた。私もこれまでに国際に関する行事や取り組みに対しては、主な担当者ではなかったということもあり、“参加”や“協力”にとどまっていた一人である。しかし、今回教材研究を通じて意識が一番変化したのは私自身かもしれないと感じている。

国際的分野に関心をもつためには、まずは自分と関係のあることとしてとらえることが必須であると考えている。これは福祉科目の開発・改善を行う際にも課題となっている点でもある。行動変容・主体形成を促すのはなかなか難しい。しかし、本校の生徒の良い面である素直に吸収し考え“心が揺さぶられた”というところまで、まずはもっていきたい。この科目ではまず気付かせる・きっかけ作りを目指し試行してきた経過について述べたい。

「グローバルライフ」は、これまで１年次必修科目として２単位で開講していた「家庭基礎」を設置学年はそのままに、世界についても視野が広がるように内容を発展させ、生徒が身近な課題から国際的な課題を考察することを目指している。また、３年次に取り組む卒業（課題）研究で必要とされる課題発見力、課題解決力を養うために、ＳＧＨ基礎科目として意識づけや動機づけをすることが本科目の使命である。

２．学習目標の設定

本科目内容のベースとなる「家庭基礎」の学習指導要領の目標は、「人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」である。生活のあらゆる場面でグローバル化が進んでいる近年、生活上の課題や地域社会の課題の解決について考えていく中で海外とのつながりを無視することはできない。私たちの生活そのものが海外と密接な関わりを持っている。しかし、私たちは日常の中でそれらを意識しながら生活することはあまりない。このような日常生活の中から地球市民としての気づきを促し、隣の国・遠く離れた国で起きていることは、私には関係ないではなく、私とどこかでつながっているということを意識させ、これからの暮らし方について考えさせたい。これらをふまえ、下記３点を科目の目標として設定した。

１）自分を見つめる・自分らしさを考える。他者理解に努める。
２）世界で起きている現実を理解し、世界と自分の生活とのつながりについて考える。
３）自分の文化も相手の文化も理解し、尊重できる。

今年度は、試行段階でもあるため、家庭基礎としての授業目標である“自分・自分の生活をみつめること”に重きをおいた。授業を通じて、問題の構造を理解し、気づく・考える活動を通じて、暮らしに関するあらゆることと社会で起きていること・世界とがつながっていることを認識させること。大人だけが、もしくは世界で活躍する人だけが世界と関わっているのではなく、高校生で

ある自分たちも世界の様々なこととつながっており、自分と関係のないものではないという意識を持たせたい。そして、自分のすぐ近くにあるもの、日々の私たちの暮らしと社会や世界における問題に気付き、生活主体としてその問題に向き合い、より良い生活に活かしていくことのできる力を育みたい。授業を通じて視野を広げ考えるきっかけを提供したいと考えている。

3．授業構成

＜全体としての特徴＞

今年度は２学期から始め、取り組みの特徴としては、
1）学習分野の精選
2）自国の生活文化の扱い
3）自分の生活を見つめる視点を重視した構成
という３点が挙げられる。

1）学習分野の精選

家庭基礎の学習内容は多岐にわたる。どの分野も大切である。しかし、限られた時間の中で地球市民の１人として主体的に考えるためには、じっくりと考える時間が必要だと判断した。そのため、家庭基礎にある全ての分野を万遍なく学習するよりも、生徒が実感しやすく発展的に考え続けることのできる分野に絞り開発していくこと、これまでの多岐にわたる分野は考える際のひとつの視点として盛り込むなど、生活を考えるうえでどの人にとっても身近に感じやすい題材である「食」分野を中心に、今年度の試行では取り組むこととした。

2）自国の生活文化の扱い

グローバル人材（地球市民）としての意識や視野を持たせるためにも、日本以外の国々とのつながりに加え、“私・日本”を考え、“他者・他国”との比較によって再考することで、他者理解、自己理解が充実すると考える。そのため、高等学校家庭科学習指導要領の改善の具体的事項にもあるように、日本の生活文化についても基礎的な範囲で扱い、日本人としての自分、日本に住む私として生活文化を見つめ直すことができるように構成することとした。

3）自分の生活を見つめる視点を重視した構成

今回の科目開発では、“他人事にしない”“身近に引き寄せて考える”ことを重視している。そのためには、家庭科で大切にしている「私の生活」を見つめ直すことから始め、「私の生活」が「社会・世界」とどのようにつながっているのかを知り、再び「私の生活」を考えるという流れで構成することとした。

4．授業実践の実際

＜１学期＞

１学期は指定を受けて間もない時期だったため、家庭基礎の分野の中でも家庭・自分と社会とのつながりを最も考える分野である「家庭経済」「消費生活」に取り組ませ、消費の観点から生徒自身の生活を見つめさせることとした。

＜２学期＞

２学期からはグローバルライフとして、内容を変更し試行を始めた。その際、今後の授業方針などについてガイダンスを行ってから始めた。

・「グローバルライフ」ガイダンス

本科目はこれまでの家庭基礎とは内容を大きく変える。家庭基礎として養いたい態度・力だけではなくそこへ世界を視野に入れてものごとを考えること、その意義、授業計画、評価方針について話をした。また、本校のＳＧＨカリキュラムの概要、ＳＧＨ基礎科目として位置づけられるグローバルライフの果たす役割について説明した。しかし、このようにガイダンスを行ったものの、生徒の中には、家庭科という科目からイメージする内容である保育や被服などができなくなってしまい残念だと漏らす者、内容が急に替えられたと表現する者もおり、困惑している様子が感じとれた。生徒にとっても教員にとっても試行錯誤で進めていく以上、毎回の授業で目標や学ぶ意義などについて、丁寧な説明をし、理解に努めたいと感じた。

・自分の国の食文化

世界のことを知るためには、まずは日本のことを知ることが必要である。世界と私たちの生活のつながりを考えるうえでもまずは私の生活について知らなければ深く理解することは難しいと考えた。そこで、いきなり世界の食べ物についてやるのではなく、現代の私たちの食生活の現状、だし文化について取り上げることとした。授業は一部、埼玉大学の協力を経て行った。

自分の食生活チェックから日本人の食の現状について、食事の多様化、洋風化を栄養面から考えると同時に、日

本人の食生活の変遷について食料自給率の変化にも注目させた。その流れの中で２０１３年１２月に世界無形文化遺産になった和食とその食文化について取り上げた。日本の食の現状と食文化という視点を重視し、認定された背景について考えさせ、日本の多様化する食の中で改めて和食とは何かについて考えさせた。

授業方法は講義だけでなく、本校の生徒の好きな体験的な活動を盛り込み、かつおぶしを削る・だしの飲み比べ、だしを使った料理の展開として一汁三菜献立の調理実習も取り入れた。特に埼玉大学の協力を経て一部のクラスで行った豆腐と三つ葉にもみじの麩を浮かべたすまし汁の試飲の際には、各自が椀の蓋を開けたときに「わぁ～」「きれい」と言った歓声が起こった。その後の生徒の感想にも、和食の特徴・伝えたい日本の食について考えさせる際にも、和食は季節感を大切にするという点が強く印象に残った様子であった。

・日本の食と世界とのつながり～パーム油～

前の単元では食生活の変化で油脂の摂取量が増えていることを学んだ後でもあり、私たちの生活と世界がつながっていることを知る題材として、私たちの生活にもはや欠かせない植物性油脂、中でもパーム油から世界とのつながりを考えさせることとした。授業の感想からは授業を通じてハッとさせられた。初めて知ったという生徒も多かったようである。特に響いた部分は、パーム油を用いて製造している某チョコレート菓子メーカーを批判する動画だったようである。生徒のよく食べるチョコレート菓子だったこともあり、チョコレート製造に欠かせないパーム油が環境負荷を与えていたことを初めて知りショックを受けていた。また、その動画が菓子メーカーを動かし、環境に与える負荷を最小限にとどめるようメーカーが努力をするようになり、そのような第一歩によって企業に変化をもたらすこともあるという点が印象的だったと感想に書いてくれた生徒もいた。

・日本の食と世界とのつながり～食品ロス～

日本の食料自給率、世界とのつながりについてパーム油を切り口に視野を世界へ向けたところで私たちの食の在り方を考えさせる題材として、食品ロスを取り上げた。食品ロスは日本の食の現状を見つめさせる題材として活かしやすいが、世界の現状も併せて意識して考えさせることを重視した。高校生は家族と暮らすため、食生活をつくる主体は保護者である者がほとんどである。そのため、冷蔵庫の中で食品ロスとなっていく食べ物があることについては、自分のこととしてはなかなかとらえにくかったようである。食品ロスにしてしまう人への一方的な批判が目立った。食品ロスの原因が個人に起因するだけでなく、食品メーカーにも一因があることや無駄にしない工夫について伝えると同時にセカンドハーベストジャパンなどによる食品ロスの活用事例についても紹介した。生徒によっては、世界の食糧支援の量と変わらない多くの食べ物をこんなに食料自給率の低い日本が捨ててしまっている現状に憂いながら、自分の生活に立ち戻って考える者もいた。

＜３学期＞

・私たちの生活について考える～コンビニ～

便利なことが当たり前になっている私たちの生活について考えさせたいとの思いでコンビニについて扱うことにした。当初はコンビニ弁当のフードマイレージについて取り上げるつもりでいたが叶わず、コンビニの現状と便利さの追及による弊害について考えさせるに留まってしまった。私たちの暮らしになくてはならない存在となっているコンビニの光と影の両面を見せることで私たちの暮らしの在り方について考えさせるのがねらいだったが、コンビニを利用しないことは、もはやなかなか難しいにもかかわらず「コンビニを利用しすぎるとダメ人間になってしまう」という短絡的な意見でまとまってしまった生徒も多かった。でもここにこの科目のジレンマ、難しさがある。現実を理解し、ではどうしたらいいのか考えてはみるものの、どうしたら良いのかわからない。どうしようもできない自分に気付く。すっきりと答えが出るものではないということで消化不良のようなものになってしまうこともある。時間が許すならばその「どうしたらいいのだろう」と考え続ける生徒に寄り添い、一緒に考えたいがそれは難しい。この取り組みは、身近で私たちの生活に不可欠なものであるがゆえに、難しい題材であったと感じている。

・日本に住む外国の人との交流

埼玉大学に留学中の学生を１人お招きし、自分の国の食べ物についての話をしてもらった。母国がバングラデシュということで、生徒はバングラデシュについて事前に調べ学習を行い、交流当日は教員の作ったバングラデシュ料理を皆で試食した。交流といっても１対４０での講演形式での授業だったため、もっと関わる時間が欲しかったという声もあったが、生徒はとても刺激を受けたようで是非来年の１年生にもやってあげてくださいとい

う生徒までいた。取り組みとしては、成功かもしれないが、よりブラッシュアップしていくには、日本の当たり前が世界での当たり前ではないということについてもっと考えさせるような展開をできるとさらによかったと考えている。また、今回は1クラスでの試行的な実施であったため実現できたが、次年度にも行う場合には、綿密な計画と調整が鍵となるであろう。

・ふりかえり

ここまで何を学んできたかということを生徒自身も確認し、もう一度これからの自分の生活の在り方について考えてほしいとの思いで、校内で国際教育を日頃から担当されている先生方のお力も借りながら、ふりかえりの手法を考えた。映像を再生して学習項目について刺激を与え思い出させる手法を簡略化し、これまでに授業で使ってきた鍵となるような画像を紙に印刷して配布し、それを用いて、授業内容の関連性を考えながらまとめていくという手法でふりかえりを行った。

まずはグループで行い、各班の作品を説明しながら発表し共有していった。その後、さらに各自で画像を少し小さくしたもので取り組ませた。すると、グループで取り組んだ以上に多彩なまとめができた。良かった点としては、2回のふりかえり作業によってこれまでの学習を再確認できたこと、自分の中で学びを整理する時間ができたことである。できれば多彩なまとめを互いに見せ合いながら共有する時間がもてると更によかったと感じている。

5．課題と今後の展望

今年度は試行ということで、さまざまな取組を試みた。この段階で紀要に書くということが申し訳ないほどの試行錯誤の1年だった。先が見えずどこをゴールにしたら良いのか、もがき苦しんだ。それは、いくら科目としてのねらいがあったとしても、引き出す方法は教科によって異なる。ここまでやってきて思うのは、やはり私は家庭科の教員であるため、家庭基礎をベースに授業を展開するというと、生徒自身が自分の生活について考えること、そこにつながるような取り組みを思いつくことが多い。もしかすると、世界に視野を広げる取り組みとしては、当初期待されていたものよりも狭かったかもしれない。その点については次年度への課題としたい。

1年間が終わってふりかえってみると、世界にまで視野を広げることにより、今までの家庭基礎で取り上げてきた内容についてもグローバルな視点を養うための材料となることに気付いた。しかし、今までの家庭基礎と異なり、意識したことは、「生活者として私たちのこれからの在り方を考える」ことに、“地球に住む私”という視点を盛り込んだことである。「“地球市民として私たち生活者はこれからどのように生きていくか、生活していくかを考える”」のである。

グローバルって何だろう。そもそも日本の生活文化って何だろう。世界とつながるとは？というようにグローバルライフの取り組みについて、様々なとらえ方がある。生徒にとってとらえにくいところもあったようである。よってガイダンス時の説明が重要となる。「何を学ぶか」「なぜ学ぶのか」については、各取り組みの際に丁寧に説明してきたつもりではあったが、私の担当したクラス以外では、最後の感想文に世界のことをやるのに何で日本のことをやるのかということに意義を見出せず困惑したという生徒の様子も見られた。最後まで放り出さずに真剣に向き合ってくれた生徒に感謝すると同時に、その切実な意見を次年度に活かしたい。また、教材のアイディアや協力を申し出てくださった先生方のおかげで1年間やり遂げることができたことに感謝申し上げたい。

最後にとった生徒のアンケートに「今まで国際に興味なかったけれど、ちょっと考えてみようかなと思いました」という一言があった。いろいろと身に付けさせたい力、養いたい視点はある。でも、まずは基礎科目として「ちょっと考えてみようかな」という思いを全ての生徒に持たせること。見えていなかった問題が見えるようになること。これが初めの一歩である。家庭科は従来から“私の生活”を軸に考える教科である。ただ、私たちの生活は、すでに地球規模で考えなければならないことが山のようにある。しかし、“私の生活”がどのようにして成り立っているかは見えにくい。しかも、“私の生活”がどのようにして成り立っているかを知るだけでは、「へ～そうなんだ」で終わってしまい、生徒は必ずしも自分の身近に引き寄せることはできない。

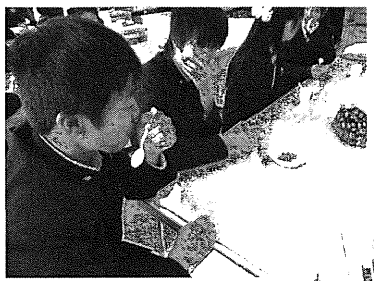
いかに身近にするか。家庭科がこれまでにも行ってきた“私の生活”に関わる体験的な学びから考えさせ、“私の生活”をじっくりと考えることで、“自分の生活”と“社会”とがどのようにつながっているかについて気付かせられるのではないかと考えている。他人事ではなく、自分事にするための科目になるよう努めたい。今後も地球市民性を養うために家庭科としてできることを考えていきたい。

＜授業概要＞

	学習項目	学習方法	学習内容	時間
1学期	**家庭科を学ぶ意義** **自分の生活を見つめる①** （家庭経済分野）	科目ガイダンス（1H）、 講義・ワークシート（以下WS）へ記入（17H）	ガイダンス 家庭科で学ぶことは何か 自分の生活を家庭経済の面から見つめる 1．これまでに私にかかったお金はいくら？ 2．一か月の生活費予算立て・発表（4H） 3．雇用形態と日本の現状 4．給与明細からお金について知る （収入・支出・保険に関しての知識） 5．消費生活の現状について考える	18
	グローバルライフ　試行　開始			
2学期	**自分の国の文化** ～食分野から考える～	科目ガイダンス（1H）、 ①②③講義・WSへ記入（7H） ④⑤実習・演習（4H） ⑥グループでKJ法・発表・共有（2H）	ガイダンス グローバルライフの授業を通じて学ぶこと・考えてほしいこと（目標） 授業の進め方・取り組み方（学習活動・評価について） 日本の食文化について理解する 1．日本の食の現状～栄養面～ 2．日本の食生活の変化 3．和食とは何か。無形文化遺産登録背景から考える 4．和食の基本　だしについて知る・味わう 5．一汁三菜献立に挑戦 6．和食とは何か（特色・好きな点・伝えたい点等）について改めて考える	14
	日本と世界とのつながり① ～現代の食・生活の現状を知り、 その背景について考える～	講義・WSへ記入、 PC・スマートフォンなどで調べ学習（計4H） 問題提起（1H） 調べ学習（1H） 解説（2H）	私たちの食と世界とのつながり・私たちの生活について考える① 1．私たちの生活に欠かせないパーム油 2．私たちの食料自給率と食品ロスの問題 ①食料自給率 ②食品ロスとは何か・どのくらいの量なのか ③食品ロスの原因 ④食品ロス減らすには（流通の仕組み・私たちの意識・有効活用事例）	4
3学期	**日本と世界とのつながり②** ～現代の食・生活の現状を知り、 その背景について考える～	講義・WSへ記入、 PC・スマートフォンなどで調べ学習、 ①1H ②2H ③2H ④1H ⑤2H ⑥2H	私たちの食と世界とのつながり・私たちの生活について考える② 日本の便利なコンビニエンスストアから考える 1．私たちの生活とコンビニ（相互インタビュー） 2．日本のコンビニ10社特徴調べ（企業理念・サービス内容等） 3．2．の共有 4．弁当注文ゲーム～便利を支えている仕組みを知る～ 5．コンビニ経営について 6．これからの私とコンビニについて～私たちの生活の在り方から考える～	10
	自分の生活を見つめ直す 異なる文化背景をもつ人との 交流を通じて 私たちのこれからの生活の あり方について考える	講義・WSへ記入、 PC・スマートフォンなどで調べ学習、 ①②4H ③2H ④⑤3H	私たちの食・日本の生活についてもう一度考える 日本に住む外国籍の人と交流し、改めて日本のことについて考える。 1．交流する相手の国について調べよう 2．日本の生活の当たり前って何だろう 3．日本に住む留学生との交流 4．交流をふりかえる 5．日本人の私たちが世界とのつながりをふまえて これからの私たちの生活、あり方について考える	9



＜2学期：だしを知る・味わう
～すまし汁を試食～＞
←もみじ麸で秋を先取り
椀を開けた瞬間は、
「わぁ～！」と歓声も



＜3学期：外国の人との交流＞
←バングラデシュ料理を試食
「唐辛子が効いてるね～」
↓

